

公益社団法人日本語教育学会 2025 年度事業報告
2025 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日

《2025 年度の重点項目》

第 3 次中期計画の策定に取り組む。具体的には以下の 3 点に特に留意し、運営担当者の負担や逼迫した財政状況を改善し、学会の理念をよりよく実現する体制を整備する。

- ① 本学会が、より多くの、そして、より多様な日本語教育関係者が集い、互いに学び合い、ともに成長する場となることを目指し、「日本語教育学の構造化」（2023 年 3 月報告書）を参照して事業を企画・運営する。
→ 各委員会事業企画運営において「日本語教育学の構造化」を参照する形に切り替えていただいた。それぞれの取り組みにおいて本学会の目指す姿に近づく工夫が行われた。
- ② 機能・役割の観点や意思決定の機動性の観点などから委員会の再編などを行い、本学会の理念を有効に実現でき、持続可能な事業計画を策定する。また、改革の実現に向けたロードマップを策定し、改革の推進に向けたステップを実行する。
→ 今夏作成したロードマップに沿って改革を推進してきた。次年度開始に向けて、第 3 次中期計画の策定が予定通り進んでいる。
- ③ 事業実施を含め、学会運営全般の管理体制等に関する課題を明らかにした上で、改善のための方策を検討し、立案する。
→ 学会運営全般の管理体制等に関する課題は明らかになってきた。また、改善のための方策も各ワーキンググループ、理事会、委員会、事務局を中心に検討し、代議員などの意見も聴取しつつ、実施に向けて準備を進めている。

1. 研究・研修

(1) 大会事業（所掌：大会委員会）

春季・秋季の各大会を次の通り開催した。

ア. 春季大会

(ア) 開催日：2025 年 5 月 24 日（土）、5 月 25 日（日）

(イ) 会場：オンライン開催

(ウ) 参加費：＜事前登録＞会員 3,500 円（学生証あり 2,000 円）
＜当日申込＞会員、一般ともに一律 5,000 円

(エ) 参加者数：941 名の事前参加登録があった。

イ. 秋季大会

(ア) 開催日：2025 年 11 月 22 日（土）、11 月 23 日（日）

(イ) 会場：富山国際会議場

(ウ) 参加費：＜事前登録＞会員 3,500 円（学生証あり 2,000 円）
＜当日申込＞会員、一般ともに一律 5,000 円

(エ) 参加者数：811 名の参加があった。

ウ. 大会委員会会議を 4 月 27 日、6 月 16 日、8 月 15 日、11 月 11 日、2 月 17 日に開催した。

エ. 研究発表は、審査・運営協力員および大会委員会委員（いずれも日本語教育の

有識者)によって査読を行った。

- ホ. 参加者の募集にあたっては、本学会ウェブサイト、学会メールマガジン、X、Facebookなどを用いて広報を行った。
- カ. パネリスト登壇者への報酬は、公益社団法人日本語教育学会謝金規程に基づいて支払いを行った。
- キ. 秋季大会においては、職員、アルバイトスタッフの他、サポーター（無償によるスタッフ）を11名と契約し、運営を行った。サポーターは発表会場内のマイクランナーを行った。

(2) 支部活動事業（所掌：支部活動委員会）

7. 支部集会

支部集会を次の通り行った。

(ア) 第1回支部集会（九州・沖縄支部）

- a. 開催日：7月5日（土）10:10～16:30
- b. 会場：立命館アジア太平洋大学
- c. 参加費：会員、一般とも一律1,000円
- d. 参加者数：73名の参加があった。
- e. 企画：「研究発表」（口頭6件、ポスター5件）、「交流ひろば」7件を実施。

(イ) 第2回支部集会（中国支部）

- a. 開催日：2026年2月22日（日）16:10～19:05
- b. 会場：オンライン
- c. 参加費：会員、一般とも一律500円
- d. 参加者数：32名の参加があった。
- e. 企画：「研究発表（口頭1件）」と、「生成AIで深まる言語教育」と題する講演を実施した。

(ウ) 第3回支部集会（関西支部）

- a. 開催日：3月7日（土）9:30～16:45
- b. 会場：追手門学院大学総持寺キャンパス
- c. 参加費：会員、一般とも一律1,000円
- d. 参加者数：72名ほどの参加があった。
- e. 企画：「研究発表（口頭3件・ポスター2件）」と、「関西日本語学校における多様な教育実践と課題」と題したパネルセッションを実施した。

4. 支部活動

支部活動を次の通り行う。

(ア) 四国支部活動（春季大会参加報告会）

- a. 開催日：6月22日（日）14:00～15:30
- b. 会場：愛媛大学ミュージズ2階多目的交流室
- c. 参加費：会員、一般とも無料
- d. 参加者数：14名の参加があった。
- e. 企画：5月24日（土）・25日（日）開催の日本語教育学会春季大会（オンライン）に参加した愛媛県の会員からの参加報告を実施。

(イ) 北海道支部活動

- a. 開催日：7月6日（日）10:00～13:00

- b. 会 場：北海道大学 学生交流ステーション
 - c. 参加費：会員、一般とも一律 500 円
 - d. 参加者数：25 名の参加があった。
 - f. 企 画：「CEFR の理論と実践—Can-do で広がる日本語授業作り—」と題した講演とワークショップを実施。
- (f) 関東支部活動
- a. 開催日：8 月 24 日（日）13:00~15:00
 - b. 会 場：オンライン
 - c. 参加費：会員、一般とも一律 500 円
 - d. 参加者数：26 名の参加があった。
 - e. 企 画：「自主夜間中学は何を目指すのか」と題した講演とワークショップを実施。
- (g) 中部支部活動
- a. 開催日：9 月 20 日（土）13:00~15:30
 - b. 会 場：星城大学 名古屋丸の内キャンパス
 - c. 参加費：会員、一般とも一律 500 円
 - d. 参加者数：32 名の参加があった。
 - e. 企 画：「南アジア諸国（ネパール等）からの留学生の来日背景とキャリア支援」と題した講演会と参加者の交流会を実施。
- (h) 秋季大会
- 秋季大会における「交流ひろば」を企画・実施した。今秋季大会開催地が富山県のため北陸支部所掌であるが、大会は委員会全体での協力体制の下実施した。出展者は地域枠 4 件を含む 42 件であった。
- (i) 四国支部活動（秋大会参加報告会）
- a. 開催日：12 月 9 日（火）14:30~16:00
 - b. 会 場：オンライン
 - c. 参加費：会員、一般とも無料
 - d. 参加者数：15 名の参加者があった。
 - e. 企 画：11 月 22 日（土）・23 日（日）開催の日本語教育学会秋季大会（富山国際会議場）に参加した愛媛県の会員からの参加報告を実施。
- (j) 東北支部活動
- a. 開催日：12 月 13 日（土）9:30~12:00
 - b. 会 場：オンライン
 - c. 参加費：会員、一般とも一律 500 円
 - d. 参加者数：33 名の参加があった。
 - e. 企 画：「Can do? Can' t do—『参照枠』に基づくカリキュラムと評価の再設計に向けて—」と題した講演と意見交換会を実施。
- (k) 四国支部活動
- a. 開催日：2 月 21 日（土）13:00~16:30
 - b. 会 場：今治明德短期大学
 - c. 参加費：会員、一般とも無料
 - d. 参加者数：48 名の参加があった。
 - e. 企 画：「多文化共生と日本語教育」と題して講演とディスカッションを実施した。
- ウ. 2025 年度支部の公募スケジュール

- (7) 2025年7~9月開催の発表応募
 - a. 3月25日締切：九州沖縄（口頭 応募8件（採択6件、不採択2件）、ポスター 応募6件（採択5件、不採択1件））
 - b. 5月15日締切：九州沖縄（交流ひろば（応募8件、うち1件辞退、出展7件））
 - (4) 2025年10~12月開催の発表応募
 - a. 6月25日締切：該当なし
 - b. 8月15日締切：秋季大会（交流ひろば（応募42件））
 - (5) 2026年1~3月開催の発表応募
 - a. 9月25日締切：中国（口頭 応募5件（採択2件、不採択3件）、関西（口頭 応募4件（採択4件）、ポスター 応募3件（採択2件、不採択1件））
 - エ. 支部活動支援委員会会議を5月24日、11月23日に開催した。
 - オ. 研究発表は、審査・運営協力員および大会委員会委員（いずれも日本語教育の有識者）によって査読を行った。
 - カ. 参加者の募集にあたっては、一般の方も参加できるよう本学会ウェブサイト、学会メールマガジン、X、Facebookなどを用いて広報を行った。
 - キ. パネリスト登壇者、講師への報酬は、公益社団法人日本語教育学会謝金規程に基づいて支払いを行った。
- (3) チャレンジ支援事業（所掌：チャレンジ支援委員会）
年齢や経験、業績にかかわらず、新規に日本語教育関連の研究や実践に取り組む人に対する支援・育成をめざした事業を行った。
- 7. <はじめて系>日本語教育初心者向けの催しを企画・実施した。
 - (7) 大会会場で、はじめて大会に参加する方に向け、オリエンテーション「わかばさんいらっしゃい」を実施した。また、秋季大会では「交流ひろばツアー」も実施した。
※春季大会は、事前動画閲覧198回。参加者数は春季大会は当日のZoomに9名、秋季大会は「わかばさんいらっしゃい」に39名、「交流ひろばツアー」に2名であった。
 - (4) 年2回（6月25日、12月25日）の大会発表応募締切にあわせて、交流ひろばへの出展を目指す方に向け、オンラインで「おせっかい侍の発表応募支援」を実施した。
 - a. 交流ひろばへの出展や実践発表のアイデアを話し合う「おせっかい侍の発表応募支援 STEP1 交流ひろばのタネ探し」、2026年2月（または3月）を予定であったが、実施しなかった。
 - b. 実際の出展応募書類作成に向けての「おせっかい侍の発表応募支援 STEP2 交流ひろば出展申請書ワークショップ」、2025年6月29日、参加者数は4名であった。
 - イ. <これから系>日本語教育関係者にとっての新情報を提供する催しを企画・実施した。
 - (7) 明日のための学びの場（通称：あしたば）「若者研究から考える日本語教育の未来」をオンラインで実施した。2025年8月24日、参加申込者数は32名であった。
 - ウ. <キャリア系>日本語教育をキャリアとして考える方に向けた催しを実施し

た。

(7) オンラインで、先輩との対話の場「ぶらさ da わかば」を実施した。9月6日、参加者数は7名であった。

(4) 「キャリアパスフォーラム第6弾—日本語学校の現場Ⅱ」をオンラインで実施した。2026年2月8日、51名の参加申し込み（当日参加30名）があった。

I. チャレンジ支援委員会会議を5月15日、6月24日、7月24日、10月22日、2月16日に開催した。

ホ. 講師の選定は、委員会委員（いずれも日本語教育の有識者）によって行った。

カ. 参加者の募集にあたっては、一般の方も参加できるよう本学会ウェブサイト、学会メールマガジン、X、Facebookなどを用いて広報を行った。

キ. 登壇者、講師への報酬は、公益社団法人日本語教育学会謝金規程に基づいて支払いを行った。

(4) 表彰事業（所掌：表彰委員会・授賞候補選考委員会・学会誌委員会・大会委員会）

7. 2024年度各賞の授与

(7) 日本語教育学会賞を横溝紳一郎氏に、奨励賞を山本冴里氏に、功労賞を堀井恵子氏に授与した。

(4) 『日本語教育』論文賞を以下の論文に授与した。

7) 「理系教員が持つ留学生教育観の構造—留学生プログラムを運営する理系教員の葛藤—」（執筆：阿久澤弘陽氏・河内彩香氏・佐々木幸喜氏・河合淳子氏、掲載号：187号）

4) 「日本語学習者の文構造の複雑さに関する数量的研究—I-JASのストーリーライティングの場合—」（執筆：李文平氏・劉海濤氏、掲載号：187号）

(7) 学会活動貢献賞の授与を以下の会員に授与した。

嶋津百代氏、蓮沼昭子氏、村岡貴子氏

4. 2025年度各賞の選考

(7) 第1回理事会・第3回理事会で、各賞授賞候補選考委員会委員を承認した。

(4) 学会賞・奨励賞・功労賞表彰規程第7条に規定された推薦できる会員（理事、監事、代議員、すべての委員、授賞の翌年度から4年間の学会賞・奨励賞・功労賞の授賞者）に授賞候補推薦依頼を9月1日に行った。

(7) 第5回常任理事会で、『日本語教育』論文賞の第1選考部会部会員を承認した。

(4) 第3回常任理事会で、大会若手優秀発表賞の選考部会部会員を承認した。

ウ. 受賞者の活動の成果を社会に還元できるよう、各委員会が受賞者を講師等として企画を実施する場合の招聘費用を補助するため、各委員会に各賞授賞者招聘費用補助制度の申請を募集した。その結果、調査研究推進委員会による2025年度秋季大会調査研究推進セミナーの講師招聘費用に対する補助を行った。

I. 2025年度大会若手優秀発表賞を以下の会員に授与した。

(7) 2025年度春季大会

a. 三浦景星氏（口頭発表「ベトナム人日本語学習者の促音知覚—脳波に現れる事象関連電位P300を指標として—」）

b. 田鎖楠奈氏（ポスター発表「ある在日フィリピン人介護福祉士が利用

者への想いをもとに実践した介護」)

(4) 2025 年度秋季大会

a. 松井佑樹氏 (口頭発表「AI を用いた語彙のダイナミック・アセスメントの効果—診断的語彙テストを通じた語彙の定着—」)

b. Hoang Ngoc Bich Tran 氏 (ポスター発表「うつ病を経験した技能実習生と日本語学習の意味—ウェルビーイングの視点から—」)

ホ. 表彰委員会会議を 4 月 4 日、6 月 19 日に開催した。

(5) 研修講座の実施 (所掌: 執行役員・常任理事会)

宮地裕基金人材育成研修講座事業の募集により採択された以下の講座に対して、経費支援を行った。

ア. 「読む×話す×伝える! 学習者と体験するレベル別日本語読書会ワークショップ」(7 月 20 日、8 月 31 日、10 月 18 日、12 月 14 日)。参加者数 88 名。

イ. 「介護分野の特定技能外国人に向けた学習支援を考える—実践共有と学習スケジュール作成—」(11 月 1 日)。参加者数 19 名。

ウ. 「学習者主体の初級日本語授業を行うためのサイレントウェイ研修会」(11 月 30 日、12 月 20 日、2026 年 1 月 10 日)。参加者数 34 名。

エ. 応募の審査は、理事 (いずれも日本語教育の有識者) によって行った。

オ. 募集にあたっては会員、一般の方も参加できるよう本学会ウェブサイト、学会メールマガジン、X、Facebook などを用いて広報を行った。

2. 調査研究

(1) 学会誌事業 (所掌: 学会誌委員会)

ア. 学会誌『日本語教育』(電子版・冊子版) の発行 (所掌: 学会誌委員会)

190 号~194 号の発行と準備を次の日程で行った。

(ア) 190 号: 2025 年 4 月発行。寄稿論文 6 編、論文 3 編。141 頁。

(イ) 191 号: 2025 年 8 月発行。寄稿論文 1 編、論文 6 編、研究ノート 2 編。128 頁。

(ウ) 192 号: 2025 年 12 月発行。論文 9 編、研究ノート 1 編。152 頁。

(エ) 193 号: 2026 年 4 月発行 (投稿締切: 2025 年 9 月 1 日) に向けた準備。

(オ) 194 号: 2026 年 8 月発行 (投稿締切: 2026 年 1 月 13 日) に向けた準備。

イ. 2022 年度発行の学会誌『日本語教育』掲載論文を J-Stage で公開した。

ウ. 2005 年度以前に発行の学会誌『日本語教育』掲載論文を J-Stage で公開するための許諾手続きを進めた。

エ. 2024 年度『日本語教育』論文賞受賞論文の概要紹介 (英語版) をウェブサイト で公開した。

オ. 2025 年 6 月 9 日に査読者意見交換会をオンラインで開催した。参加者数 70 名。

カ. 学会誌委員会会議を 6 月 29 日、7 月 11 日、11 月 8 日、3 月 15 日に開催した。

キ. 投稿論文の査読は、審査運営協力委員・委員会委員 (いずれも日本語教育の有識者) によって行った。

(2) 調査研究推進事業 (所掌: 調査研究推進委員会)

ア. 2025 年度春季大会で一般公開プログラム「若者のキャリア形成支援としての日本語教育—自律性・主体的自己決定を支える—」を企画し、実施した。参加者数 586 名。

- (7) 登壇者の選定は、委員会委員（日本語教育の有識者）によって行った。
 - (イ) 参加者の募集にあたっては、一般の方も参加できるよう本学会ウェブサイト、学会メールマガジン、X、Facebook などを用いて広報を行った。
 - イ. 2025 年度秋季大会で調査研究推進セミナー「地域社会における調査研究をどのように行うか—2023 年度『日本語教育』論文賞受賞論文執筆者に聞く、研究計画のヒント—」を企画し、実施した。参加者数は 46 名。
 - ウ. 日本語教育学会各事業の査読・審査等を行う審査・運営協力員約 200 名体制の補充・強化を図った。
 - エ. 2026 年度春季大会で開催する一般公開プログラムの企画立案を開始し、一般公開プログラムのテーマは、第二次中期計画における社会的研究課題に基づいて設定する計画であった。第 3 次中期計画案を理事会等で検討した結果、2026 年度春季大会で一般公開プログラムを実施しないことになった。
 - オ. 2026 年度秋季大会で開催する調査研究推進セミナーの企画立案を進めた。
 - カ. 調査研究推進委員会会議を 6 月 5 日、10 月 21 日に開催した。
- (3) 社会啓発事業（所掌：社会啓発委員会）
- 7. 日本語教育や日本語学習者に関連する社会的状況に関し、動画配信を通して、啓発活動を行う計画であった。現在、動画を作成中であり、完成後に配信する予定である。
 - イ. イベント開催の機会等を活用し、学会への寄附を呼びかけた。
 - ウ. 2025 年度秋季大会で開催する一般公開プログラム「共生社会と日本語教育～何のために日本語教育はあるべきか～」を企画し、実施した。参加者数は約 500 名であった。
 - エ. 社会啓発委員会会議を 6 月 17 日、2 月 17 日に開催した。
 - オ. 広報委員会と社会啓発委員会の合同会議を 3 月 5 日に開催した。
- (4) 受託事業（所掌：委託事業検討特別委員会）
- 7. 公益財団法人日本漢字能力検定協会が実施している BJT ビジネス日本語能力テスト事業に関し、同協会からの事業の委託を受け、モニター業務を行った。
 - (7) モニター業務実施者の選定は、委員会委員（日本語教育の有識者）によって行った。
 - イ. 文部科学省委託事業「現職日本語教師研修プログラム普及事業」【中堅】について申請に基づき事業を行った。
 - (7) 研修の講師の選定は、委員会委員（日本語教育の有識者）によって行った。
 - (イ) 研修参加者の募集にあたっては、一般の方も参加できるよう本学会ウェブサイト、学会メールマガジン、X、Facebook などを用いて広報を行った。
 - ウ. 委託事業検討特別委員会会議を 11 月 12 日、2 月 26 日に開催した。
3. 情報交流事業
- (1) 広報事業（所掌：広報委員会）
- 7. ウェブサイトの管理・運営

ウェブサイト（ホームページ、むすぶ）を引き続き運営した。多様なユーザーに対しそれぞれのニーズにあったコンテンツを提供するよう、コンテンツの充実をはかるという計画については、検討を始めたものの、社会啓発委員会を含む関係者ととも学会の事業全体を俯瞰して方向性を審議する必要があることがわか

り、2026 年度に引き続き検討し、実施することになった。

- イ. 各委員会と連携し、学会ウェブサイト、学会メールマガジン、X、Facebook、YouTube を有効活用した広報活動を展開した。
- ロ. 学会パンフレットについては第 3 次中期計画が確定後に検討する事項とし、2026 年度に引き続き検討し、実施することになった。
- エ. 広報委員会会議を 6 月 23 日、2 月 28 日に開催した。
- オ. 社会啓発委員会と広報委員会の合同会議を 3 月 5 日に開催した。

4. 連携推進事業

(1) 国際連携事業（所掌：国際連携委員会）

- ア. 世界 12 カ国・地域の学会で構成する「日本語教育グローバル・ネットワーク (GN)」事務局としての役割を引き続き担い、GN の活動を推進する目的の下、GN 代表者会議を 8 月 17 日（日）、1 月 11 日（日）に開催した。
- イ. GN ウェブサイトの管理・運営を行った。
本学会では GN 事務局として GN ウェブサイトの再構築の準備を進めるとともに、既存の GN の SNS との役割分担を明確にした。
- ロ. 2026 年に台湾で開催する「ICJLE 日本語教育国際研究大会」に関する準備に協力した。
大学院生ワークショップ（以下、WS）に対し一般社団法人尚友倶楽部に助成申請を行い、満額助成を受けることができた。また、大学院生 WS への応募を促す目的でオンラインセミナーを 2026 年 1 月 24 日（土）10:00-11:00（日本時間）と 2026 年 1 月 28 日（水）20:00-21:00（日本時間）に開催した。各々の参加者は、32 名と 21 名であった。
- エ. 「日本語教育グローバル人材奨励プログラム」を実施した。
2025 年度は 10 件の応募があり、6 件が採択となった。なお、受給者 2 名から助成金の 10%が間接経費として所属大学に納める必要があるとの連絡があった。学会から免除申請書を提出することにより当該負担を回避できるとのことであったことを受け、学会からの免除申請書各大学に提出した結果、当該負担を回避でき、2 名とも満額助成を受けることができた。また、日本語教育学会秋季大会にて、2026 年度日本語教育グローバル人材奨励プログラムの説明会を開催した。
 - (ア) 応募の選考は、委員会委員（日本語教育の有識者）によって行った。
 - (イ) 研修参加者の募集にあたっては、一般の方も参加できるよう本学会ウェブサイト、学会メールマガジン、X、Facebook などを用いて広報を行った。
- ロ. GN のイベントとして、国際連携委員会主導で「世界中の日本語教育関係者のためのオンライン交流会」を 3 月 22 日（日）に開催した。参加申し込みは 351 名、発題者は 33 組であった。
- カ. ウェブサイトコンテンツ「海外コラム」、「世界の日本語教育」の掲載については、11 月末までのところ原稿掲載依頼はない。なお、「海外コラム」「世界の日本語教育」に関しての執筆要領を作成し日本語教育学会ウェブサイトの「国際連携」のページに掲載した。

(2) 連携協力事業（所掌：連携協力委員会）

- ア. 言語系学会連合
言語系学会連合（加盟 38 学会）の活動に幹事学会として参加し協力している。

4. Net-J

Net-J（当学会他6研究会が加盟）の活動に参加協力し、互いの情報交流や情報共有、連携を推進するために連絡会議を開催する。また、春季大会で各加盟団体による企画を実施した。

Net-J代表者会議を2月1日に開催した。

(3) 日本語教育関係機関・団体との協力（所掌：執行役員）

日本語教育関係機関・団体の事業に対し、要請により後援を行った。

7. 第2回広島大学ベトナム人の日本語作文コンクール（国立大学法人広島大学）
《実施日》2025年10月18日
- イ. 第26回長安杯中国大学生日本語プレゼンテーション大会（NPO法人環境研究と教育国際交流協会）《実施日》2025年11月1日
- ロ. 第64回外国人のための日本語弁論大会（一般財団法人国際教育振興会）《実施日》2025年12月6日
- ハ. 第36回第二言語習得研究会全国大会（第二言語習得研究会）《実施日》2025年12月20日-21日
- ニ. 第2回広島大学インドネシア人の日本語作文コンクール（国立大学法人広島大学）《実施日》2026年2月7日
- ホ. 第38回全国専門学校日本語学習外国人留学生日本語弁論大会（全国専門学校日本語教育協会）《実施日》2026年2月10日
- ヘ. 第23回全養協公開講座（一般社団法人全国日本語教師養成協議会）《実施日》2026年2月14日
- ト. 2026日本留学・就職（技術・人文知識・国際業務・介護・特定技能）フェア in Indonesia（一般社団法人国際人流振興協会）《実施日》2026年7月25日-28日
- チ. 第65回外国人のための日本語弁論大会（一般財団法人国際教育振興会）《実施日》2026年10月3日
- リ. 2026年度BJTビジネス日本語能力テスト（公益財団法人日本漢字能力検定協会）《実施日》CBT方式で原則として毎日実施

5. 会務運営

(1) 会員の状況

3月31日

会員種別	普通 (個人)	普通 (学生)	普通 (団体)	賛助 (個人)	賛助 (団体)	名誉	計
国内	2,870	149	88	4	56	1	3,168
海外	237	1	2	0	0	0	240
計	3,107	150	90	4	56	1	3,408

(2) 代表理事・業務執行理事の会務運営にかかわる業務

7. 執行部会議

- (ア) 4月7日 第1回 (zoom)
- (イ) 4月25日 第2回 (zoom)
- (ウ) 5月13日 第3回 (zoom)
- (エ) 6月26日 第4回 (zoom)
- (オ) 7月15日 第5回 (zoom)
- (カ) 9月10日 第6回 (zoom)
- (キ) 10月10日 第7回 (zoom)
- (ク) 11月22日 第8回 (富山)
- (ケ) 12月8日 第9回 (zoom)
- (コ) 1月7日 第10回 (zoom)
- (サ) 2月12日 第11回 (zoom)
- (シ) 3月4日 第12回 (zoom)

イ. その他の会議等

- (ア) 4月20日 次期理事との会合
- (イ) 6月9日 西口会長・小澤副会長と事務局長との打合せ
- (ウ) 7月7日 西口会長と国際連携委員長との打合せ
- (エ) 7月11日 小澤副会長と総務担当職員との打合せ
- (オ) 7月30日 伴野副会長と事務局職員との打合せ
- (カ) 8月25日 小澤副会長と総務担当職員との打合せ
- (キ) 8月26日 執行部と事務局との打合せ
- (ク) 11月28日 小澤副会長と事務局との打合せ
- (ケ) 11月28日 小澤副会長と総務担当職員との打合せ
- (コ) 12月22日 小澤副会長と総務担当職員との打合せ
- (サ) 1月14日 小澤副会長と総務担当職員との打合せ
- (シ) 2月18日 小澤副会長と総務担当職員との打合せ
- (ス) 2月26日 小澤副会長と総務担当職員との打合せ
- (セ) 3月2日 小澤副会長と事務局職員との打合せ
- (ソ) 3月3日 小澤副会長から事務局職員へのML設定レク

ウ. 大会会期中の説明会

- (ア) 5月25日 「日本語教育学会の第3次中期計画の骨子について」実施
- (イ) 11月23日 「2026年度以降、日本語教育学会の運営はどう変わる？
—第3次中期計画策定の現状と今後—」実施

Ⅰ. 賛助会員の集い

- (ア) 2月26日 第10回 賛助会員の集いを神田カンファレンスルーム セミナールーム2及びZoomにて開催。対面参加者9名、オンライン参加者5名。

Ⅱ. 全委員会委員長会議

- (ア) 8月25日 2025年度全委員長委員長会議

Ⅲ. 外部対応

- (ア) 5月30日 文部科学省総合教育政策局日本語教育課との面談
(学会事務局)
- (イ) 6月9日 2026台湾ICJLE助成の件で一般社団法人尚友倶楽部往訪
- (ロ) 6月12日 日本語教育推進議員連盟第22回総会出席
- (ハ) 6月14日 2026台湾ICJLE助成の件で台湾と打合せ
- (ニ) 7月14日 2026台湾ICJLE助成の件で台湾と打合せ
- (ホ) 7月25日 2026台湾ICJLE助成の件で台湾と打合せ
- (ヘ) 8月1日 2026台湾ICJLE助成の件で台湾と打合せ
- (セ) 8月7日 2026台湾ICJLE助成の件で一般社団法人尚友倶楽部往訪
- (ゼ) 8月25日 文部科学省総合教育政策局日本語教育課との面談
(学会事務局)
- (コ) 9月12日 一般社団法人尚友倶楽部 懇親会参加
- (ク) 10月3日 一般社団法人尚友倶楽部 懇親会参加
- (ケ) 10月22日 独立行政法人国際交流基金授賞式参加
- (コ) 12月11日 日本語教育推進議員連盟第22回総会出席
- (セ) 2月14日 一般社団法人全国日本語教師養成協議会シンポジウム参加

(3) ワーキンググループの活動

Ⅰ. 大会事業検討ワーキンググループの活動

- (ア) 8月2日 第1回会議
- (イ) 8月18日 第2回会議
- (ロ) 10月27日 第3回会議
- (ハ) 1月7日 第4回会議

Ⅱ. 財務検討ワーキンググループの活動

- (ア) 7月30日 事前打合せ
- (イ) 9月11日 第1回会議
- (ロ) 12月11日 第2回会議
- (ハ) 1月15日 小会議
- (ニ) 2月6日 第3回会議
- (ホ) 3月9日 第4回会議

Ⅲ. ハラスメント対策ワーキンググループの活動

- (ア) 9月5日 第1回会議
- (イ) 10月1日 第2回会議
- (ロ) 11月10日 第3回会議
- (ハ) 1月23日 第4回会議

Ⅰ. コンプライアンスワーキンググループの活動

- (ア) 4月7日 第1回会議
- (イ) 9月22日 第2回会議
- (ウ) 11月12日 第3回会議
- (エ) 2月2日 第4回会議
- (オ) 10月16日～11月20日 コンプライアンス研修事前解説動画配信
- (カ) 12月17日 コンプライアンス研修（オンライン）

(4) 代議員総会・理事会

7. 代議員総会の開催（5月25日にオンラインにより開催）

第1号議案 2024年度事業報告及び決算報告の承認について

第2号議案 新理事・監事の承認について

第3号議案 代議員選出手続に関する規程の一部改定について

〔報告事項〕

- (1) 第2次計画の評価結果及び第3次計画の骨子と基本方針
- (2) 2025年度事業計画及び収支予算について
- (3) 内閣府提出の事業変更認可申請について
- (4) 2024年度各賞受賞者・受賞論文について

4. 代議員懇談会の開催（12月1日にオンラインにより開催）

2026-2030年度の5年間にわたる第3次中期計画の策定状況について報告・共有し、意見交換を行った。

ウ. 理事会の開催

第1回理事会（5月10日にオンラインにより開催）

〔決議事項〕

- 1 第13回定時代議員総会の開催通知（案）について
- 2 2024年度事業報告（案）について
- 3 2024年度決算報告（案）について
- 4 代表理事・業務執行理事の執行状況の報告について
- 5 代議員選出手続に関する規程の改定（案）について
- 6 就業規則の改定（案）および関連規程（案）について
- 7 2025年度常置委員会委員（案）について
- 8 学会賞・奨励賞・功労賞表彰規程（改定案）について
- 9 2025年度授賞候補選考委員会委員候補者〔理事枠・代議員枠以外〕（案）について

〔報告事項〕

- 1 世界中の日本語教育関係者のためのオンライン交流会開催報告
- 2 次期理事・監事候補者の内諾状況について
- 3 第7回代議員選挙立候補者について
- 4 第3次中期計画の基本方針（案）について
- 5 コンプライアンス・ワーキンググループのアンケート結果について
- 6 ハラスメントへの対応方法について

第2回理事会（5月25日にオンラインにより開催）

[決議事項]

- 1 議長選出
- 2 代表理事（2名）の選定
- 3 コンプライアンス規程の改定（案）について

第3回理事会（7月6日にオンラインにより開催）

[決議事項]

- 1 代表理事・業務執行理事の職務権限細則（別表）の改定（案）について
- 2 理事の事業等担当要領（別表）の改定（案）について
- 3 社会啓発委員会委員の追加選出について
- 4 2025年度授賞候補選考委員会委員候補者（理事枠・代議員枠・広報委員会委員枠）および委員予備者の選出について
- 5 コンプライアンス・ワーキンググループメンバー（案）について
- 6 宮地裕基金取扱規程の改定（案）について
- 7 2026年度における宮地裕基金人材育成研修講座の実施について
- 8 2025年度春季大会 大会若手優秀発表賞授賞候補者について

[報告事項]

- 1 2025年度春季大会概況について
- 2 2025年度委員会委員について
- 3 今後の理事会・常任理事会の開催日程について

[その他]

- 1 第3次中期計画策定のロードマップ

第4回理事会（12月20日にオンラインにより開催）

[決議事項]

- 1 就業規則の改定（案）
- 2 学会誌委員会委員の退任および欠員補充
- 3 対面開催の大会会場予約ならびに開催情報公開の手続き

[報告事項]

- 1 2025年度秋季大会概況
- 2 2025年度中間事業報告と予算執行状況報告
- 3 大会事業検討ワーキンググループ活動状況
- 4 財務検討ワーキンググループ活動状況
- 5 ハラスメント対策ワーキンググループ活動状況
- 6 コンプライアンス・ワーキンググループ活動状況
- 7 大修館『現代日本語教育ハンドブック』について

[その他]

- 1 第3次中期計画案及び2026年度事業計画案の中間報告

第5回理事会（3月20日にオンラインにより開催）

[決議事項]

- 1 第14回定時代議員総会議事日程（案）
- 2 代表理事・業務執行理事の執行状況の報告について
- 3 第3次中期計画（案）
- 4 2026年度重点項目（案）・事業計画（案）・予算（案）

- 5 2027 年度改選に向けた各種規程の改定（案）
- 6 継続雇用規程（案）及びその労働契約書（案）
- 7 契約職員・非常勤職員就業規則（案）及びその労働契約書（案）
- 8 給与規程の改定（案）
- 9 2026 年度からの業務分担および職責（案）
- 10 日本語教育学会アンチハラスメントポリシー（案）
- 11 会員への告知文（案）
- 12 定款の改定（案）
- 13 理事の担当要領別表の改定（案）
- 14 2025 年度各賞授賞候補（案）
- 15 2026 年度宮地裕基金人材育成研修講座の応募選考について
- 16 令和 8 年度文部科学省委託事業の申請について

〔報告事項〕

- 1 『日本語教育』194 号（2026 年 8 月 25 日刊行）の寄稿について
- 2 『日本語教育』196 号（2027 年 4 月 25 日刊行）の特集について
- 3 「賛助会員の集い」の実施報告
- 4 大会事業検討ワーキンググループ活動状況
- 5 財務検討ワーキンググループ活動状況

〔その他〕

- 1 2026 年度常任理事会・理事会の開催予定について
- 2 2026 年度事務局の委員会業務の進め方について

第 1 回決議の省略（4 月 9 日可決）

〔決議事項〕

- 1 2025 年度理事改選 専門・職域領域の被推薦者追加（2 名）の承認

第 2 回決議の省略（6 月 9 日可決）

〔決議事項〕

- 1 副会長（業務執行理事）の承認
- 2 常任理事の承認

第 3 回決議の省略（2 月 4 日可決）

〔決議事項〕

- 1 2025 年度秋季大会 大会若手優秀発表賞受賞候補者の承認

7. 常任理事会の開催

第 1 回常任理事会（4 月 20 日にオンラインにより開催）

〔決議事項〕

- 1 2024 年度第 8 回常任理事会議事録（案）について
- 2 2025 年度第 1 回理事会議事日程（案）について
- 3 2024 年度事業報告（案）について
- 4 2024 年度決算報告（案）について
- 5 学会賞・奨励賞・功労賞表彰規程（改定案）について
- 6 競争的研究費による学術論文を即時オープンアクセス化への対応について

〔報告事項〕

- 1 次期理事・監事候補者の内諾状況について
- 2 第7回代議員選挙立候補者について
- 3 第3次中期計画の基本方針（案）について
- 4 就業規則等の改定および設置について

第2回常任理事会（7月21日にオンラインにより開催）

〔決議事項〕

- 1 2025年度第1回常任理事会議事録（案）
- 2 理事会・常任理事会における議事の提案と報告にかかわる要領の改定（案）
- 3 ハラスメント対策ワーキンググループ設置運営要領（案）
- 4 財務検討ワーキンググループ設置運営要領（案）
- 5 大会事業検討ワーキンググループ設置運営要領（案）
- 6 ワーキンググループのメンバーの選任
- 7 2025年度秋季大会昼休み説明会使用申請
- 8 コラム『海外の学会から』『世界の日本語教育』執筆要領の設置（案）
- 9 2026年度台湾日本語教育国際研究大会について

〔その他〕

- 1 第3次中期計画の策定状況（中間報告）

第3回常任理事会（9月27日にオンラインにより開催）

〔決議事項〕

- 1 2025年度第2回常任理事会議事録（案）
- 2 就業規則の改定（案）
- 3 学会による社会的発信に関する要領の改定
- 4 2025年度秋季大会大会若手優秀発表賞選考部会員の指名
- 5 2026年度春季大会開催方式の具体（案）と発表応募要領（案）
- 6 2027年度春季大会会場（案）
- 7 GNウェブサイト作成にかかわるWIXアカウントの作成

〔報告事項〕

- 1 大会事業検討ワーキンググループ活動状況
- 2 財務検討ワーキンググループ活動状況
- 3 ハラスメント対策ワーキンググループ活動状況
- 4 コンプライアンスワーキンググループ活動状況

〔その他〕

- 5 第3次中期計画の策定状況（中間報告）

第4回常任理事会（10月26日にオンラインにより開催）

〔決議事項〕

- 1 2025年度第3回常任理事会議事録（案）
- 2 就業規則の改定（案）
- 3 2026年度宮地裕基金人材育成研修講座の応募要領（案）
- 4 GNウェブサイト再構築とWIXアカウントの作成

〔報告事項〕

- 1 コンプライアンスワーキンググループ活動状況
- 2 大修館『現代日本語教育ハンドブック』について

3 2026 年度台湾日本語教育国際研究大会の大学院生ワークショップについて

[その他]

1 第3次中期計画の策定状況（中間報告）

第5回常任理事会（12月5日にオンラインにより開催）

[決議事項]

- 1 2025年度第4回常任理事会議事録（案）
- 2 就業規則の改定（案）
- 3 2026年度春季大会昼休み説明会使用申請について
- 4 2025年度『日本語教育』論文賞選考部会員の指名
- 5 『日本語教育』投稿要領の改定（案）
- 6 日本語教育学会アンチハラスメントポリシー（案）

[報告事項]

- 1 2025年度秋季大会概況
- 2 大会事業検討ワーキンググループ活動状況
- 3 財務検討ワーキンググループ活動状況
- 4 コンプライアンス・ワーキンググループ活動状況
- 5 2025年度予算執行状況（中間報告）

[その他]

- 1 2026年度事業計画案の中間報告
- 2 第3次中期計画案の中間報告

第6回常任理事会（1月24日にオンラインにより開催）

[決議事項]

- 1 2025年度第5回常任理事会議事録（案）
- 2 2027年度各種改選手続きに関する基本方針（案）
- 3 2025年度秋季大会 大会若手優秀発表賞授賞候補者について
- 4 継続雇用規程案の中間報告

[報告事項]

- 1 大会事業検討ワーキンググループ活動状況
- 2 コンプライアンス・ワーキンググループ活動状況

[その他]

- 1 第3次中期計画案及び2026年度事業計画案の中間報告
- 2 2026年度予算案の中間報告

第7回常任理事会（3月1日にオンラインにより開催）

[決議事項]

- 1 2025年度第6回常任理事会議事録（案）
- 2 第3次中期計画案
- 3 2026年度重点項目案・事業計画案・予算案
- 4 継続雇用規程案及び関連規程等案
- 5 日本語教育学会アンチハラスメントポリシー案
- 6 定款の改定
- 7 理事の担当要領別表の改定
- 8 2026年度春季大会大会若手優秀発表賞選考部会員の指名

9 日本語教育グローバル人材奨励プログラム助成金申請

[報告事項]

- 1 財務検討ワーキンググループ活動状況
- 2 コンプライアンスワーキンググループ活動状況
- 3 2025 年度各賞授賞候補（案）

第 1 回決議の省略（5 月 13 日可決）

[決議事項]

- 1 2025 年度春季大会 大会若手優秀発表賞部会員の承認

(5) 当該公益法人の運営体制の充実をはかるための取組

ア. 外部理事・外部監事について

- (ア) 現在 19 名いる理事のうち、15 名が外部理事となっている。
- (イ) 2 名の監事については、現在外部監事の配置ができていない。次回改選時に配置する。

イ. 法令遵守について

理事、監事、事業を直接運営する委員会委員長及び副委員長、職員に対し法令遵守の観点からコンプライアンス研修を実施した。

ウ. 公益法人として求められる所要の報告とともに、体制の整備（関係規程を含む）を進めた。

内閣府へ提出した書類は、現在までのところ下記のとおりである。

- (ア) 6 月 17 日 理事監事変更届
- (イ) 6 月 30 日 2024 年度事業報告
- (ウ) 10 月 27 日 定款変更届

エ. 次年度以降は、内閣府「公益法人の自主的・自律的ガバナンス強化のための調査報告書」や他法人の事例を参考にするなどし、取り込みを進めていく。

(6) 事業の運営関係

これまでの評価を踏まえて、事業の企画・準備・実施等について、及び学会全体の運営のあり方について点検をすすめた。

(7) 横断的事業の検討

第 1 回全委員会委員長会議を 8 月 25 日に開催した。

以上